

# 市内遺跡発掘調査概報 28

- 平成 31(令和元) 年度調査の概要 -



龍王山中腹から望む安心院盆地

2020

大分県宇佐市教育委員会

# 例 言

- 1 本書は、宇佐市教育委員会が国庫・県費の補助を得て実施した平成 31（令和元）年度市内遺跡発掘調査事業に関する調査概要報告書である。
- 2 調査を実施した遺跡は第 1 表に示した遺跡である。
- 3 遺構記号については、『発掘調査のてびき』（文化庁文化財部記念物課 2010）に従った。なお、図版等ではトレンチを TR と表記する。
- 4 本書に示した緯度・経度の数値は発掘調査の際に設置した世界測地系による杭によるものと、国土地理院の地図閲覧サービス（ウォッチず）の数値を参照したものがある。
- 5 本書の執筆は弘中正芳と甲斐安寿生、矢部翔平が行い、編集は矢部が行った。文責は文末に記す。



国土地理院発行 1/500,000 地方図「九州」をもとに作成

第 1 図 宇佐市位置図 (S=1/1,000,000)

## 1 はじめに

周知の埋蔵文化財包蔵地内において、土木工事等の開発工事を行う場合は、文化財保護法第93条や第94条に基づき、届出・通知が必要となる。社会教育課文化財係は、開発行為の内容を確認し、既往調査の成果をもとに事前審査を行い、慎重工事・工事立会・発掘調査の所見を大分県教育庁文化課（以下、県文化課）あてに進達し、対応については県文化課の方針に従っている。

なお、埋蔵文化財の存在状況の確認調査が必要な場合には、本事業内で事前に試掘・確認調査を行って遺跡の有無を確認し、事後の行程を円滑に進めている。

### 調査団の構成

調査主体者	宇佐市教育委員会
調査責任者	宇佐市教育委員会教育長 竹内 新
調査指導委員	真野 和夫（元大分県立歴史博物館副館長） 武末 純一（福岡大学人文学部教授） 玉田 芳英（奈良文化財研究所都城発掘調査部部長） 田中 裕介（別府大学文学部教授）
宇佐市教育委員会	教育次長 上田 誠之 社会教育課長 野 勝教 文化財係総括 矢野 貴晃 主任 弘中 正芳                      主事 中野 秀俊 技師 甲斐 安寿生                  技師 矢部 翔平 臨時職員 青柳 由佳里

### 調査方針

調査の方法は、グリッドまたはトレンチを主とした遺構確認作業が中心である。トレンチ等で調査区を設定後、バックホーで表土や旧耕作土を除去し、遺構の検出や掘り下げについては人力で行った。また、必要に応じてトレンチを拡張した。

平成16年10月26日付けで文化庁が刊行した「行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての基準（報告）」を遵守しつつ、調査指導委員会より指導を受けて調査方針を決定し、確認した遺構の掘り下げ及び遺物の取り上げは最小限度に止めている。

第1表(1) 発掘届等提出遺跡一覧

番号	所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経
			市町村	遺跡番号		
1	小部遺跡	宇佐市荒木 453-6	44211	211017	33° 33' 25.8"	131° 20' 15.4"
2	時枝陣屋跡	宇佐市上時枝 598-7	44211	211012	33° 33' 14.0"	131° 18' 29.7"
3	小部遺跡	宇佐市荒木 453-6、453-8	44211	211017	33° 33' 25.8"	131° 20' 15.4"
4	松垣遺跡	宇佐市上元重 76	44211	211097	33° 30' 57.2"	131° 18' 04.9"
5	宇佐町遺跡	宇佐市南宇佐 2138-14、2138-1	44211	211334	33° 31' 43.0"	131° 22' 24.0"
6	大根川遺跡	宇佐市南敷田 626	44211	211078	33° 32' 47.9"	131° 16' 50.3"
7	城井遺跡	宇佐市城井 1928-6	44211	211046	-	-
8	瓦塚遺跡	宇佐市四日市 14-1	44211	211123	-	-
9	中屋敷遺跡	宇佐市上田 564-2	44211	211052	-	-
10	樋田遺跡	宇佐市閣 171-1	44211	211124	-	-
11	樋田遺跡	宇佐市閣 229-9、232-4	44211	211124	-	-
12	四日市横穴墓	宇佐市四日市 3801-1、3800-1	44211	211108	33° 31' 40.8"	131° 19' 22.3"
13	広崎氏切寄跡	宇佐市中原 467-2、454-15、454-13	44211	211239	-	-
14	樋田遺跡	宇佐市閣 2-3	44211	211124	-	-
15	畑田遺跡	宇佐市畑田 1337	44211	211049	-	-
16	中原遺跡	宇佐市中原 523-2	44211	211127	33° 30' 50.7"	131° 20' 14.2"
17	藤田遺跡	宇佐市南宇佐 2234-4 外	44211	211149	-	-
18	狐坂城跡	宇佐市北宇佐 2089-7	44211	211331	33° 31' 38.7"	131° 21' 26.4"
19	宇佐町遺跡	宇佐市南宇佐 2462-1、2462-5	44211	211334	33° 31' 37.6"	131° 21' 59.6"
20	吉松遺跡	宇佐市吉松 89-1	44211	211044	33° 32' 24.0"	131° 19' 23.1"
21	樋田遺跡	宇佐市中原 70-8	44211	211124	-	-
22	畑田城跡	宇佐市畑田 1290-2	44211	211241	-	-
23	久々姥古墳群	宇佐市猿渡 1120-30、1120-49	44211	211031	33° 32' 17.6"	131° 18' 11.2"
24	松坂遺跡	宇佐市姥木 1402	44211	211212	33° 32' 49.6"	131° 23' 59.7"
25	高村焼生産遺跡	宇佐市上高 1266-1	44211	211035	33° 32' 53.1"	131° 18' 50.1"
26	樋田遺跡	宇佐市閣 383-1、385	44211	211124	-	-
27	樋田遺跡	宇佐市樋田 5、7-1	44211	211124	33° 31' 22.5"	131° 20' 21.8"
28	樋田遺跡	宇佐市中原 115-3	44211	211124	-	-
29	荒木城跡	宇佐市荒木 238-1	44211	211042	-	-
30	狐坂城跡	宇佐市北宇佐 2054-1	44211	211331	-	-
31	狐坂城跡	宇佐市北宇佐 2055	44211	211331	-	-
32	鳥越遺跡	宇佐市安心院町 259-1 外	44211	211308	-	-
33	宇佐町遺跡	宇佐市南宇佐 2127-3	44211	211334	33° 31' 42.6"	131° 22' 28.9"
34	穴井遺跡 中原遺跡	宇佐市大塚 541-3、543-3	44211	211343 211127	-	-
35	中屋敷遺跡	宇佐市上田 479-1	44211	211052	33° 32' 00.8"	131° 20' 47.5"
36	中屋敷遺跡	宇佐市法鏡寺 201-1、201-2、202-4	44211	211052	33° 31' 48.4"	131° 20' 49.9"
37	中原遺跡	宇佐市中原 303-2、303-7	44211	211127	-	-
38	大根川遺跡	宇佐市佐野 1421-1	44211	211078	33° 32' 50.0"	131° 16' 45.8"
39	出口遺跡	宇佐市四日市 1156-2	44211	211344	33° 32' 00.5"	131° 19' 20.9"
40	狐坂城跡	宇佐市北宇佐 2089-6、2089-8	44211	211331	33° 38' 38.4"	33° 21' 25.8"
41	台ノ原遺跡	宇佐市山下 2197、2198、2199	44211	211104	-	-
42	吉松遺跡	宇佐市吉松 89-2、89-3	44211	211044	-	-
43	尻掛窯跡	宇佐市南宇佐 941-2	44211	211197	33° 31' 45.1"	131° 22' 52.2"
44	宇佐地区条里跡	宇佐市川部 536-1、536-2	44211	211019	33° 33' 06.6"	131° 20' 59.2"
45	樋田遺跡	宇佐市樋田 20-1	44211	211124	-	-
46	中原遺跡	宇佐市中原 523-5	44211	211127	-	-
47	中原遺跡	宇佐市中原 523-4	44211	211127	33° 30' 51.8"	131° 20' 13.9"

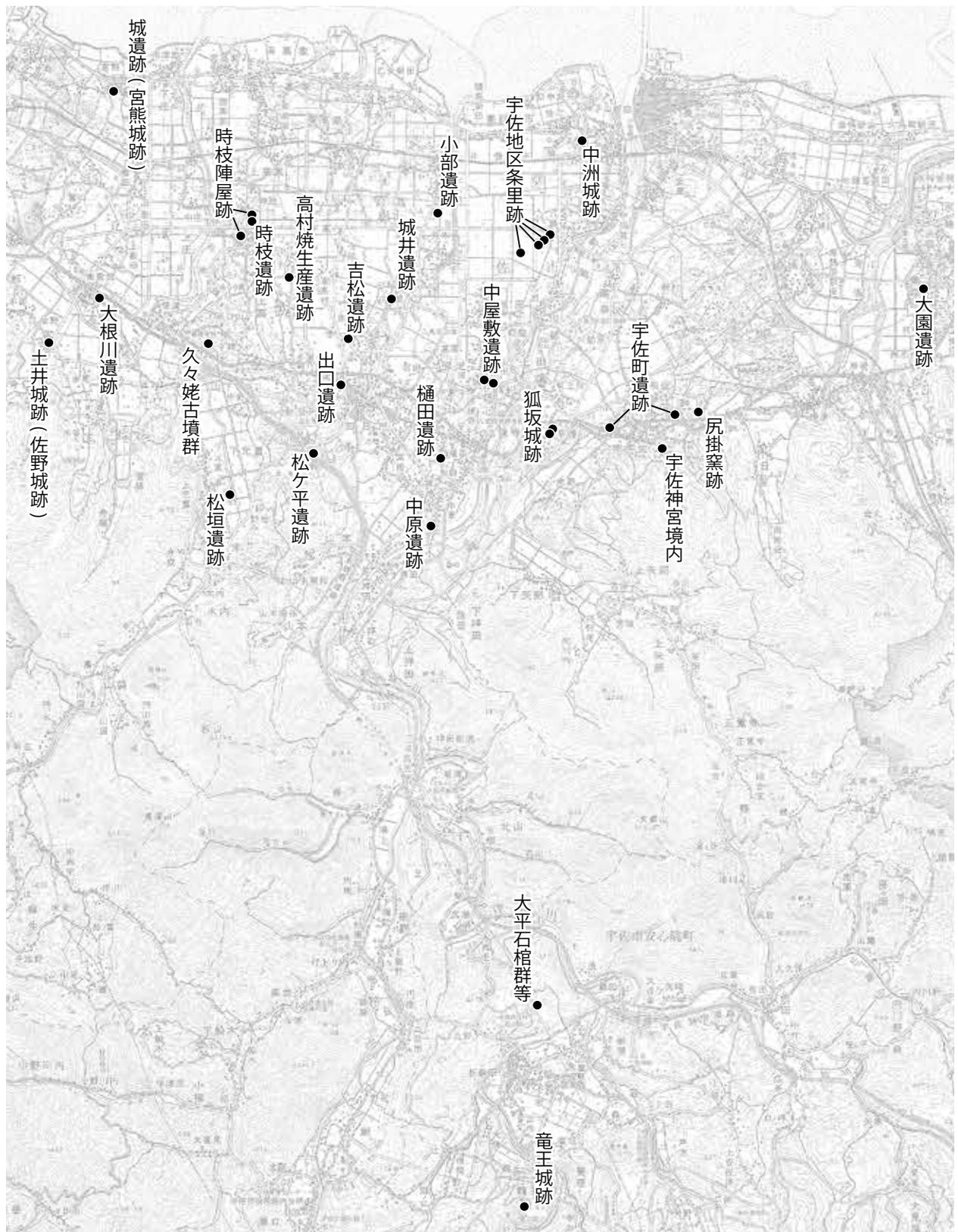
調査原因 (工事内容)	取扱い	調査期間	調査面積 (㎡)	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
個人住宅	発掘調査	20190328～20190712	456	古墳時代から古代	竪穴建物、掘立柱建物等	土師器、須恵器等	埋土保存 昨年度届出
個人住宅	工事立会						昨年度届出
宅地造成	発掘調査	20190328～20190712	456	古墳時代から古代	竪穴建物、掘立柱建物等	土師器、須恵器等	埋土保存 昨年度届出
個人住宅	工事立会	20190823	304	-	-	-	遺跡なし 昨年度届出
個人住宅	工事立会		441.25				
個人住宅	工事立会	20190809	330.57	古墳時代から中世	-	須恵器、土師器	包含層あり
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
集合住宅	工事立会		907				
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
その他開発 (古紙保管庫)	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	工事立会	20190708	286.74	不明	竪穴建物？	土師器等	埋土保存
道路	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	工事立会		288.36				
集合住宅	工事立会	20190928～20191007	1579.66	古代から中世	-	土師器等	包含層あり
個人住宅	工事立会	20190702	99.37	-	-	-	遺跡なし
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
その他建物 (事務所)	工事立会	20190919	1157.28	-	-	-	遺跡なし
個人住宅	工事立会	20190927	93.56	-	-	-	遺跡なし
個人住宅	工事立会	20191203～20191204	448.62	古墳時代から 古代・中世	柱穴、土坑	須恵器、土師器等	
その他建物 (病院)	慎重工事	-	-	-	-	-	-
宅地造成	工事立会	20190805	2427.92	古墳時代から古代	-	須恵器、土師器等	包含層あり
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
その他開発 (太陽光発電)	慎重工事	-	-	-	-	-	-
その他開発 (太陽光発電)	慎重工事	-	-	-	-	-	-
その他農業関連事業	慎重工事	-	-	-	-	-	-
店舗	その他(注意) 及び工事立会		599.88				
その他建物 (児童クラブ)	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	工事立会	20190809	251.23	-	-	-	遺跡なし
宅地造成	工事立会		1477.58				
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	工事立会		293.26				
集合住宅	発掘調査	20190906	349.47	不明	柱穴	-	埋土保存
個人住宅	工事立会	20191226	443.19	-	-	-	遺跡なし
その他開発 (駐車場)	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
その他建物 (防火水槽)	発掘調査	20191004	528	-	-	-	遺跡なし
公園造成	工事立会	20191031	1966.56	古代、近代	条里遺構	須恵器等	
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	工事立会	20190914	288.98	-	-	-	遺跡なし

第1表(2) 発掘届等提出遺跡一覧

番号	所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経
			市町村	遺跡番号		
48	井手ノ上古墳	宇佐市大塚 489-4、489-11	44211	211129	-	-
49	安福寺切寄跡	宇佐市下高家 119-4、202	44211	211010	33° 34′ 35.4″	131° 17′ 52.4″
50	原山古墳	宇佐市蜷木 2206-11、2206-89	44211	211182	33° 32′ 36.3″	131° 23′ 04.3″
51	土井城跡(佐野城跡)	宇佐市佐野 644-3	44211	211330	33° 32′ 20.7″	131° 16′ 27.4″
52	中原遺跡	宇佐市中原 580-2	44211	211127	-	-
53	大園遺跡	宇佐市青森 480-1	44211	211215	33° 32′ 49.8″	131° 25′ 02.4″
54	宇佐地区条里跡	宇佐市江須賀 4054-4	44211	211019	33° 33′ 16.9″	131° 21′ 23.3″
55	時枝遺跡	宇佐市下時枝 500-4、500-4	44211	211329	33° 33′ 25.5″	131° 18′ 26.0″
56	葛原遺跡	宇佐市葛原 77-2、87、90	44211	211048	-	-
57	松ヶ平遺跡	宇佐市四日市 4463-2	44211	211113	33° 31′ 26.3″	131° 19′ 01.2″
58	宇佐地区条里跡	宇佐市江須賀 4087-2	44211	211019	-	-
59	樋田遺跡	宇佐市中原 78-2、79-1、81-1	44211	211124	-	-
60	樋田遺跡	宇佐市樋田 160-1	44211	211124	-	-
61	宇佐地区条里跡	宇佐市江須賀	44211	211019	33° 33′ 35.0″	131° 21′ 28.4″
62	狐坂城跡	宇佐市北宇佐 2089-2	44211	211331	33° 31′ 38.3″	131° 21′ 26.1″
63	竜王城跡	宇佐市安心院町龍王 808	44211	211293	33° 25′ 10.4″	131° 21′ 08.1″
64	樋田遺跡	宇佐市樋田 5-7	44211	211124	-	-
65	中洲城跡	宇佐市住吉町 2-6-1	44211	211021	33° 34′ 03.1″	131° 21′ 44.1″
66	中原遺跡	宇佐市中原 523-5、523-3	44211	211127	-	-
67	宇佐地区条里跡	宇佐市江須賀 4020-8、4023-10	44211	211019	33° 33′ 13.6″	131° 21′ 21.9″
68	樋田遺跡	宇佐市樋田 5-2、7-3	44211	211124	-	-
69	吉松遺跡	宇佐市吉松 58-31	44211	211044	-	-
70	中屋敷遺跡	宇佐市上田 851、852、853-1	44211	211052	-	-
71	樋田遺跡	宇佐市閤 158-1	44211	211124	-	-
72	時枝陣屋跡	宇佐市上時枝 296-5	44211	211012	33° 13′ 14.7″	131° 18′ 22.8″
73	蛇畑遺跡	宇佐市橋津 176-3	44211	211217	33° 31′ 51.0″	131° 23′ 48.8″
74	樋田遺跡	宇佐市中原 135 の一部	44211	211124	-	-
75	穴井遺跡 中原遺跡	宇佐市大塚 542-2	44211	211343 211127	-	-
76	中屋敷遺跡	宇佐市上田 511、512、513、516-2	44211	211052	33° 32′ 03.7″	131° 20′ 43.1″
77	塔ノ本遺跡	宇佐市大塚 479-3	44211	211221	-	-
78	樋田遺跡	宇佐市樋田 5-3、7-5	44211	211124	-	-
79	御幡村際遺跡	宇佐市北宇佐 1913-2	44211	211137	-	-
80	御幡村際遺跡	宇佐市北宇佐 908-2、1911-1、1911-2、 1911-3	44211	211137	-	-
81	中原遺跡	宇佐市中原 381、382	44211	211127	-	-
82	中川遺跡	宇佐市上田 1046-3	44211	211328	33° 31′ 59.1″	131° 20′ 59.3″
83	上居屋敷遺跡	宇佐市別府 368	44211	211242	-	-
84	野口遺跡	宇佐市上田 1810-9、1810-6	44211	211070	-	-
85	城井遺跡	宇佐市城井 689-1	44211	211046	33° 32′ 30.0″	131° 19′ 44.8″
86	時枝陣屋跡	宇佐市下時枝 500-1	44211	211012	33° 33′ 26.8″	131° 18′ 25.7″
87	樋田遺跡	宇佐市中原 78-6	44211	211124	-	-
88	宇佐神宮境内遺跡	宇佐市南宇佐 534-2 外 57 筆	44211	211199	33° 31′ 26.2″	131° 23′ 15.3″
89	中屋敷遺跡	宇佐市上田 903、905、906	44211	211052	-	-
90	宇佐地区条里跡	宇佐市江須賀	44211	211019	33° 33′ 32.3″	131° 21′ 28.3″
91	樋田遺跡	宇佐市樋田 7-1、5-1	44211	211124	-	-
92	樋田遺跡	宇佐市中原 59-3	44211	211124	-	-

※発掘調査・工事立会のうち、空白箇所は未調査

調査原因 (工事内容)	取扱い	調査期間	調査面積 (㎡)	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
店舗	工事立会		2120.83				
個人住宅	工事立会		585.17				
その他建物 (防火水槽)	工事立会	20191007	219.71	-	-	-	遺跡なし
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	工事立会	20191120	561	古代から中世	柱穴、土坑	土師器	
個人住宅	工事立会	20200226	428.94	-	-	-	遺跡なし
個人住宅	工事立会	20200228	471.51	-	-	-	遺跡なし
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	工事立会	20191102～20200220	283	-	-	-	遺跡なし
その他建物 (倉庫)	慎重工事	-	-	-	-	-	-
宅地造成	その他(注意) 及び慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
道路	工事立会		3200				
個人住宅	工事立会	20200225	753.65	-	-	-	遺跡なし
その他建物 (防災無線基地局)	発掘調査	20200116～20200205	35	中世から近世	石列	瓦、土師器等	
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	工事立会	20200304	463.05	-	-	-	遺跡なし
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	工事立会	20200217	755.21	-	-	-	遺跡なし
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
集合住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	工事立会	20200226	310.73	-	-	-	遺跡なし
個人住宅	工事立会		409.91				
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
その他建物 (仮設校舎)	慎重工事	-	-	-	-	-	-
その他建物 (子ども園)	その他(注意) 及び工事立会	20200117	1245.44	-	-	-	遺跡なし
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
その他開発 (太陽光発電)	慎重工事	-	-	-	-	-	-
その他開発 (太陽光発電)	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	その他(注意) 及び慎重工事	-	-	-	-	-	-
その他建物 (車庫)	発掘調査		322.7				
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	工事立会		1024.5				
個人住宅	工事立会		330.96				
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
農業基盤整備事業	発掘調査		117635				
その他建物 (建売住宅)	慎重工事	-	-	-	-	-	-
道路	工事立会		3800				
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-
個人住宅	慎重工事	-	-	-	-	-	-



第2図 調査地点位置図 (S=1/27,000 : 上が北)

## 2 今年度調査の概要

平成 31（令和元）年度に提出された文化財保護法第 93 条に基づく周知の埋蔵文化財包蔵地内での届出は 74 件、第 94 条に基づく発掘通知は 14 件である。前述の対応内訳は、発掘調査 5 件、立会調査 35 件、慎重工事 48 件（第 1 表参照）である（数値はいずれも令和 2 年 3 月 19 日時点）。

今年度にも本事業で対応した調査件数は、前年度の申請分を含んで、確認調査 7 件、立会調査 27 件である。以下、調査を行った遺跡ごとの所見を記す。

**小部遺跡**（昨年度届出）では、宅地造成及び個人住宅建築に伴い確認調査を実施した。詳細は本年にも本事業で発行する報告書にて報告する。

**宇佐町遺跡**（昨年度届出分含む）は、個人住宅及び集合住宅建築に伴う浄化槽設置工事の際に立会調査を実施した。調査の結果、個人住宅建築箇所では遺構は確認されず工事着工とした。集合住宅建築箇所における調査の詳細は次章で記す。

**城遺跡（宮熊城跡）**（昨年度届出）、**松垣遺跡**（昨年度届出）、**大根川遺跡**、**松坂遺跡**、**狐坂城跡**、**時枝陣屋跡**、**時枝遺跡**、**松ヶ平遺跡**、**中洲城跡**は、個人住宅建築に伴う浄化槽設置工事の際に立会調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかったため工事着工とした。

**中原遺跡**は、2 軒の個人住宅建築に伴う地盤改良工事の際に立会調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物の確認はできなかったため工事着工とした。

**吉松遺跡**は、個人住宅建築に伴う水道管理設工事の際に立会調査を実施した。調査の結果、掘削が地山まで達しないことが判明したため工事着工とした。

**久々姥古墳群**は、事務所建設に伴う基礎工事及び浄化槽設置工事の際に立会調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかったため工事着工とした。

**高村焼生産遺跡**では、個人住宅建築に伴う浄化槽設置工事の際に立会調査を実施した。詳細は次章で記す。

**樋田遺跡**は、宅地造成に伴う L 字擁壁設置工事の際に立会調査を実施した。調査の結果、東側に向けて地形が落ち込むことを確認したが、遺構は検出されず工事着工とした。

**中屋敷遺跡**は、建売住宅及びこども園建築に伴う基礎工事の際に立会調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかったため工事着工とした。

**出口遺跡**は、集合住宅建築に際し確認調査を実施した。詳細は次章に記す。

**尻掛窯跡**は、防火水槽設置工事に伴い確認調査を実施した。詳細は次章で記す。

**宇佐地区条里跡**では、事務所及び個人住宅建築に伴う浄化槽設置工事で 3 件、爆弾池（市指定史跡）の展望台設置 1 件の計 4 件の立会調査を実施した。浄化槽設置工事では、いずれも遺構は確認されず工事着工とした。展望台建設箇所では、地表から 120cm 下で条里遺構を検出した。遺構は写真で記録保存し工事着工とした。

**土井城跡（佐野城跡）**は、防火水槽設置工事に伴い立会調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できなかったため工事着工とした。

**大園遺跡**は、個人住宅建築に伴う浄化槽設置工事の際に立会調査を実施した。調査の結果、地表から 40cm 下で柱穴 1 基、土坑 1 基、性格不明の遺構 1 基を検出した。土坑からは古代から中世の土器が出土した。遺構は写真で記録し工事着工とした。

**竜王城跡**は、防災無線基地局建設に際し確認調査を実施した。詳細は次章で記す。

**城井遺跡**では、開発予定地にて確認調査を実施した。詳細は次章で記す。

**史跡宇佐神宮境内**では、史跡の現状変更（菱形池浚渫）に伴い 1 件の確認調査を実施した。詳細は次章に記す。（矢部）



宇佐町遺跡 (個人住宅)



城遺跡 (宮熊城跡、個人住宅)



松垣遺跡 (個人住宅)



大根川遺跡 (個人住宅)



松坂遺跡 (個人住宅)



狐坂城跡 (個人住宅)



時枝陣屋跡 (個人住宅)



時枝遺跡 (個人住宅)



松ヶ平遺跡（個人住宅）



中洲城跡（個人住宅）



吉松遺跡（個人住宅）



久々姥古墳群（事務所）



樋田遺跡（宅地造成）



宇佐地区条里跡（爆弾池展望台）



土井城跡（防火水槽）



大園遺跡（個人住宅）

### 3 発掘調査の成果

#### (1) 出口遺跡

##### 調査に至る経緯

出口遺跡は、宇佐市大字四日市市街地西側の微高地上に位置する。平成4年には調査地東側に位置する大分県道44号線の工事に伴う調査で、弥生時代後期の竪穴住居が1軒、古墳時代後期の竪穴住居が2軒確認されている。遺跡の700m南には古墳時代後期の四日市横穴群が存在することから、当該地周辺は横穴群の被葬者集団の集落跡が存在する可能性が考えられる。

今回は、集合住宅建築に伴い事前に確認調査を実施した。



第3図 出口遺跡調査区配置図 (S=1/2,000)

##### 調査の概要

調査は、建屋位置にL字型トレンチ(8m×1.5m、8m×1.5m)を設定し、遺構・遺物の有無を確認した。

調査の結果、地表下50cmで遺構を検出した。調査区の大部分は攪乱を受けておりピットを7基検出したがいずれも削平が激しく、検出面からの深さは深いものでも15cm程度であった。ピット及び周辺から遺物は出土していない。

また、トレンチ北側から東側にかけて東西に並ぶ石を5基検出した。石の頂部は平坦に削られていることから、礎石として使用されていた可能性も考えられる。なお、周辺からの出土遺物はなく遺構の時期は不明である。

調査により遺構が確認されたため開発者と協議を行った結果、工法が表層改良から、地下遺構に影響のない盛土及びベタ基礎に変更となり遺構の保存が確認されたため、図面及び写真による記録保存を行い工事の着工を許可した。(甲斐)



完掘状況 (南から)



TR 中央部検出柱穴 (南西から)



TR 東側検出礎石 (北から)



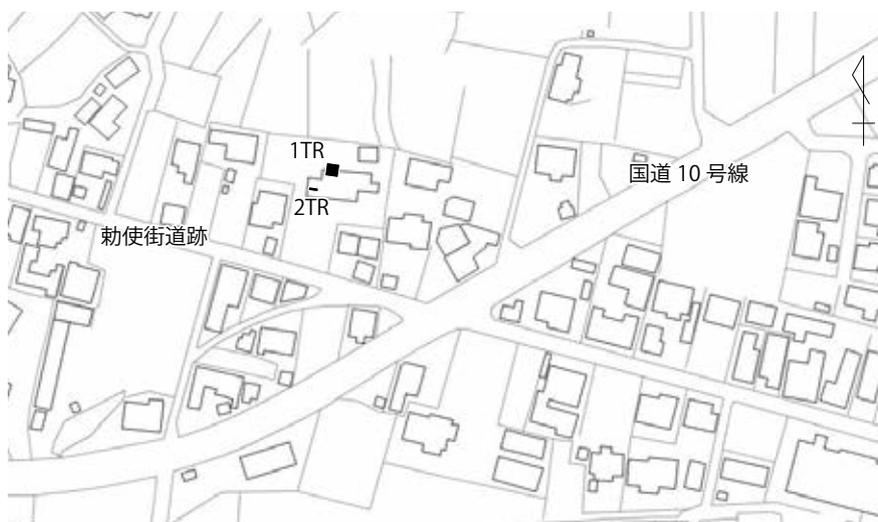
完掘状況 (東から)

## (2) 宇佐町遺跡

### 調査に至る経緯

宇佐町遺跡は、宇佐市大字南宇佐に所在しており、寄藻川左岸の低地に位置する集落遺跡である。調査区西側の丘陵斜面には、古墳時代終末期の凶首塚古墳や百体社があり、南側には宇佐神宮へ延びる勅使街道跡がある。

今回は、集合住宅建築に伴う浄化槽設置工事に際して2ヶ所で立会調査を実施した。



第4図 宇佐町遺跡調査区配置図 (S=1/3,000)

### 調査の概要

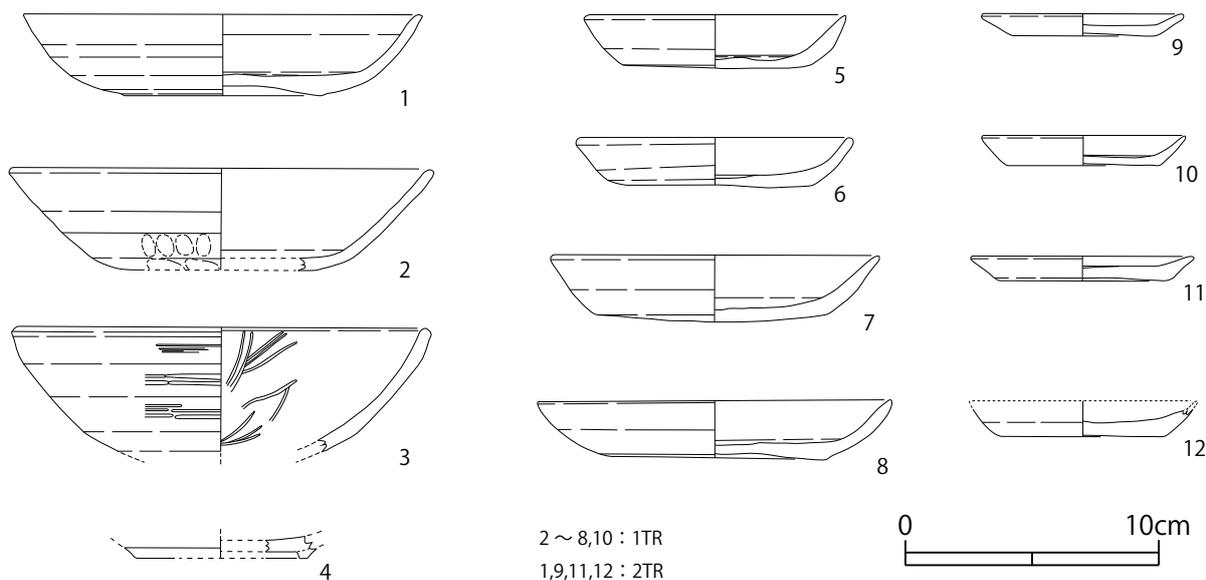
浄化槽設置地点に1トレンチ (4m × 4m)、2トレンチ (2m × 1.3m) を設定し、遺構・遺物の有無を確認した。どちらのトレンチも地表から厚さ20～40cmの造成土層の下に包含層があり、その下はシルト層が堆積していた。シルト層は寄藻川の氾濫による自然堆積層と思われる。

調査の結果、遺構は確認されず工事着工とした。

包含層からは古代を中心とした土器が20～30個体分出土した。今回は完形に近いもののみを以下に図示する (2～8、10が1トレンチ。1、9、11、12が2トレンチ)。1、5～8、10、11は土師器の杯、皿である。口縁部から体部までは回転ナデ、底部内側をユビナデで仕上げ、回転糸切りで切り離しを行うものが主体である。2は須恵器杯である。回転ナデののち体部下半分から底部をユビオサエで調整している。ケズリ調整はなく、8世紀以降と考えられる。3は須恵器碗である。調整は回転ナデののち、外面は横方向のミガキ、内面はナナメ方向のミガキである。豊前地域において、ミガキを施す事例はほとんど知られていないが、体部から口縁部まで丸みを帯びることや体部から底部への屈曲が緩やかであることから豊前須恵器編年のⅥ期、7世紀後半 (小田・長 2006) の所産と考えられる。4は、須恵器杯、または碗の高台である。3・4は近距離で出土しており、同一個体の可能性がある。(矢部)

### 参考文献

小田富士雄・長直信 2006「四 豊前の須恵器生産」『行橋市史 資料編 原始・古代』行橋市



第5図 宇佐町遺跡包含層出土遺物実測図 (S=1/3)

### (3) 竜王城跡

#### 調査に至る経緯

竜王城跡は、宇佐市安心院町龍王に所在し、駅館川水系の深見川左岸の龍王山山頂に所在する。14世紀初頭に宇佐大宮司安心院公泰が神楽城として築城した。その後、建武3(1336)年には宇都宮親綱が入城し、龍王城へ改称した。慶長5(1600)年の関ヶ原の戦い後は、細川忠興が中津城主となって豊前及び豊後の国東・速見2郡を領有することになり、その家臣飯川豊前を龍王城の城代として城の改修を行ったとされている。寛永16(1639)年に廃城となった後は山頂に社殿が存在したことが絵図等から明らかである。

山頂にあるデジタルテレビ中継局建設に際して実施した発掘調査では、戦後の公園整備による攪乱が著しく、遺構は検出されなかった。

今回は、防災無線中継局建設工事に伴い確認調査を実施した。

#### 調査の概要

建物及びフェンス建築箇所に3ヶ所のトレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。

1・2トレンチでは、厚さ約30cmの現代の攪乱層を確認し、その下で岩盤に達した。

3トレンチでは地表から数cm下で石列を検出した。石列全体の平面形は東西約4.4m、南北約7.3mの長方形を呈す。

石材は、割石時の矢穴を観察できるものが多い。矢穴は、縦断面矩形(A類)、逆台形(B類)の2種類があり、どちらも矢口長は10cm前後、深度は10cm程度である。

石列の南側・西側にはサブトレンチ(3aトレンチ、3bトレンチ)を2ヶ所設定し土層を確認したが、1・2トレンチと同様、現代の攪乱層が確認され、石列埋没の下限時期を捉えることはできなかった。

今回の調査区の西側には、2段の基壇と、その上に4基の礎石、2基の燈籠部材が露出する。享保から天明期の製作と推定される「龍王城の図」(市指定有形文化財)によると、山頂に「八大龍王御宮殿」と称される社殿が描かれており、礎石等が絵図に描かれた社殿に伴うものである可能性がある。

社殿跡の基壇の石材を観察すると、今回の調査で検出した石列と若干様相が異なることが判明した。先述のとおり、石列では石材に残る矢穴が2種類あったが、基壇では3種類が認められる。石列でみられたA類、B類と、もう一つは縦断面底部の幅の狭い逆台形、矢口長5cm、深度7cm程度のものである(以下、C類)。A類、B類については、山頂北側の石垣の石材に残る矢穴と同類である。C類については、同類のものが府内城跡の石垣で確認されており、これを近代から現代の所産とする意見(浦井2017)がある。よって、この矢穴をもつ石材は中世から近世の城郭に伴うものではなく新しい可能性が高い。「八大龍王御宮殿」は文政4(1821)年に龍王山中腹に場所を移しており、C類矢穴をもつ石材の加工時期の下限はこの頃までである可能性がある。ただし、その後の近代の所産である可能性も否めない。ちなみに、参道跡石段の石材もC類矢穴を有し、基壇と同じ時期の構築と考えられる。

以上のとおり、石列は山頂北側の石垣と同じ時期の遺構、あるいは同じ時期に加工された石材(A類、B類)を再利用して二次的に築造された遺構、基壇は石垣と同じ時期の石材(A類、B類)とそれよりも新しい石材(C類)の2つの時期の石材を使用した遺構といえる。ただし、遺跡は後世の開発による影響が大きく、それぞれの正確な築造時期は不明である。

遺構は図面及び写真で記録保存を行い工事着工とした。工事に伴い取り除かれた石列の石材は、山頂に保管している。(矢部)

※「竜」と「龍」の文字の使い分けについては、以下のとおりである。

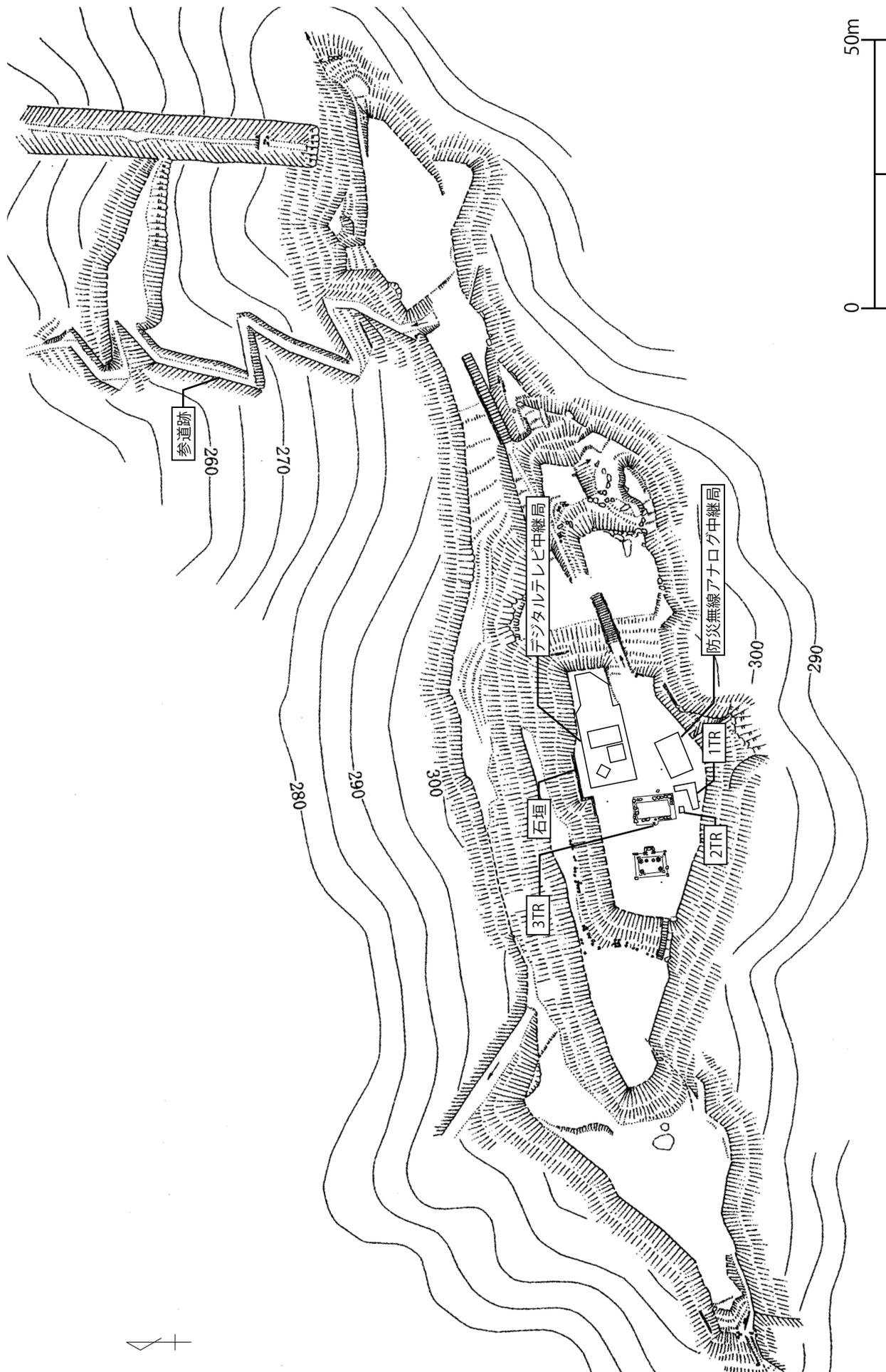
竜：周知の埋蔵文化財包蔵地

龍：絵図、地区名

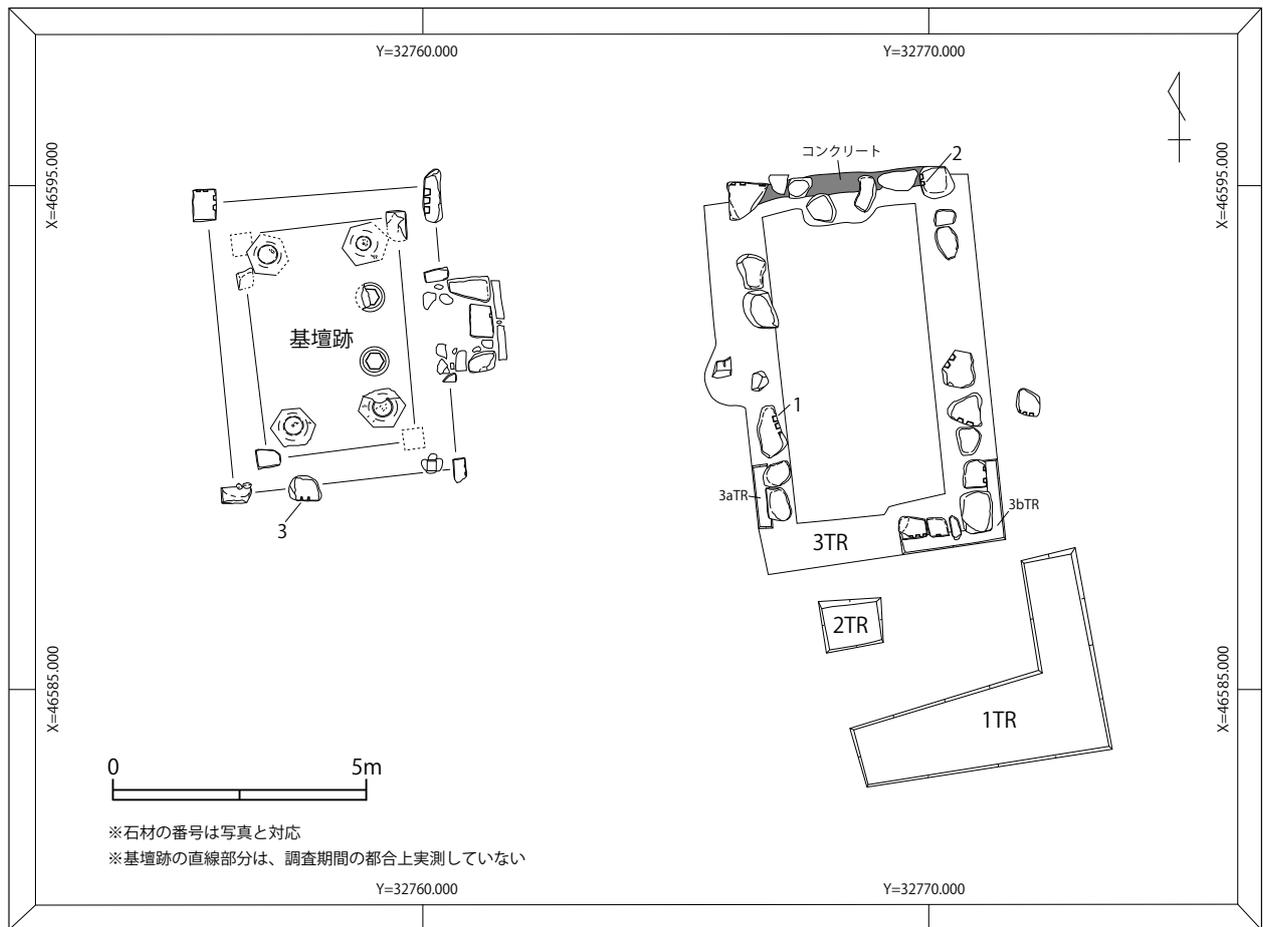
#### 参考文献

浦井直幸 2017「府内城跡石垣の矢穴調査」『九州考古学』第92号 九州考古学会

木島孝之 2001『城郭の縄張り構造と大名権力』九州大学出版会



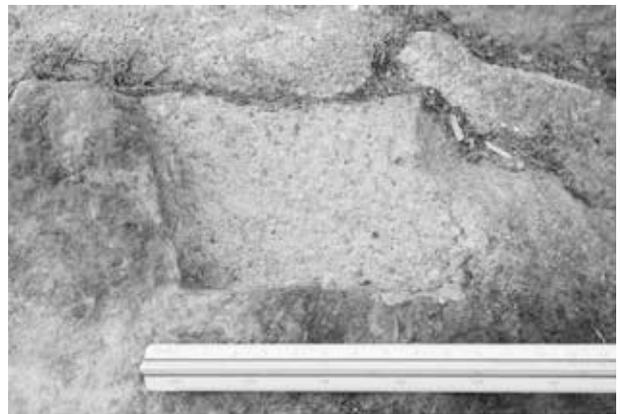
第6図 竜王城縄張り図 (S=1/1,000、木島 2001より転載、一部改変)



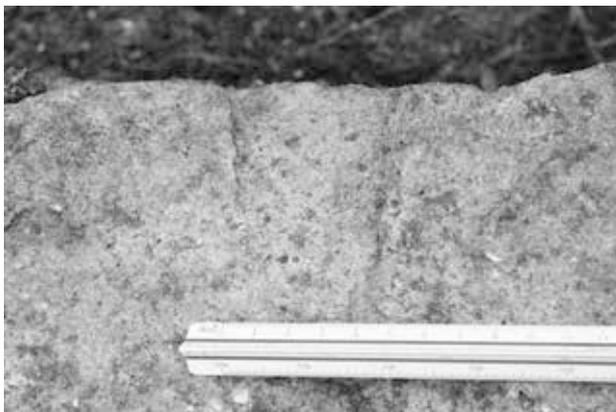
第7図 竜王城跡遺構配置図 (S=1/150)



矢穴A類 (1)



矢穴B類 (2)



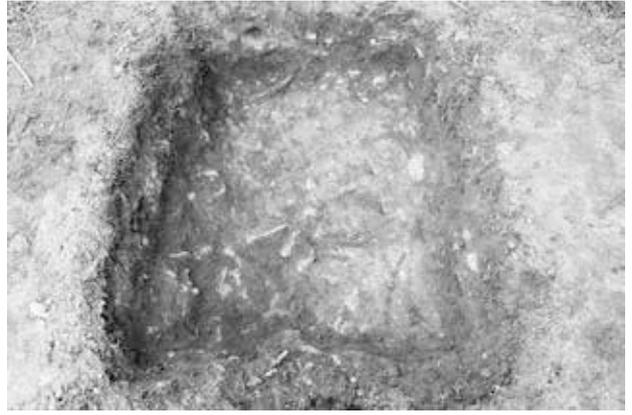
矢穴C類 (3)



矢穴A類 (山頂北側石壇)



1TR 完掘状況



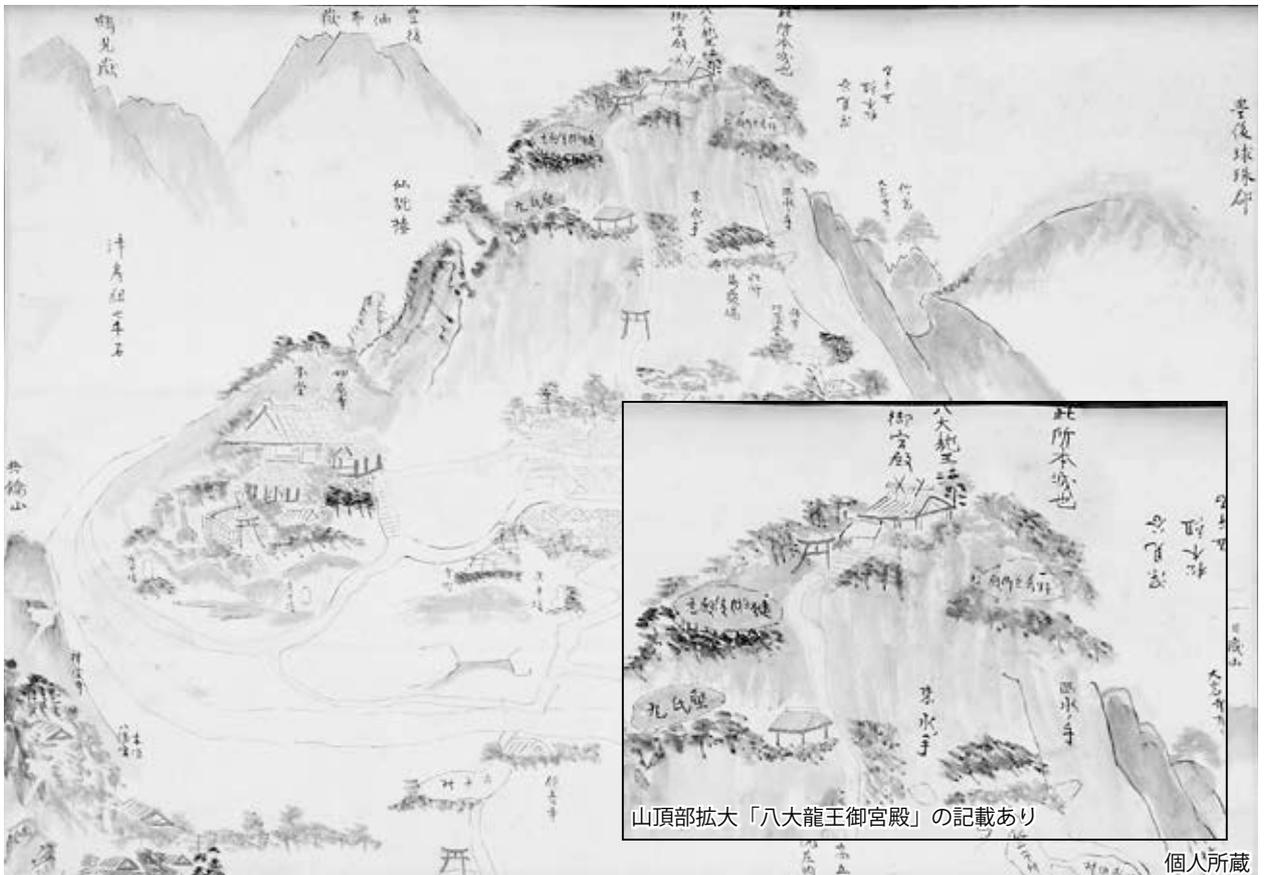
2TR 完掘状況



3TR 完掘状況



山頂全景



龍王城の図 (市指定有形文化財)

個人所蔵

#### (4) 高村焼生産遺跡

##### 調査に至る経緯

高村焼生産遺跡は、宇佐市大字上高に所在し、伊呂波川右岸の微高地に位置する。中世以降宇佐神宮の祭器として使用された「高村焼」を生産した遺跡である。今年度には窯跡周辺も周知の埋蔵文化財包蔵地に登録された。

過去に試掘調査の記録はなく、遺跡の詳細は不明であった。

今回は個人住宅建築に伴う浄化槽設置工事に際して立会調査を実施した。



第8図 高村焼生産遺跡調査区配置図 (S=1/4,000)

##### 調査の概要

浄化槽設置箇所にトレンチ (2m × 1.3m)

を設定し、遺構・遺物の有無を確認した。土層は、地表から約 10cm は表土が、その下に約 30cm の厚さの包含層が堆積し、さらにその下で地山に達した。

地山では、ピット 11 基、土坑 2 基を検出した。掘り下げた結果、SP9、SP10などは深さが 40cm 以上あり、掘立柱建物を構成する柱穴の可能性が高い。遺構の詳細は第 2 表にまとめている。

包含層および遺構内からは古墳時代から古代・中世の土師器等が出土した。1 は SP9 出土の土師器皿である。回転ナデとユビナデで調整を行い、回転糸切りで切り離している。2 は SP8 出土の瓦器椀である。器面にミガキはなく粗雑なつくりであることから 13 世紀後半以降の所産と思われる。3 は SP1 出土の土師器杯の底部である。高台径は 2.4cm であり、断面四角形の高台がやや外に張り出す。4 は SP8 出土の土師器甕の口縁部である。内外面とも器面をナデで仕上げる。5 は包含層出土の白磁椀である。大宰府編年の IV -1a 類 (横田・森田 1977) に位置づけられ、同型式の白磁が藤田遺跡 SK-17 で龍泉窯系青磁 I-3 類に共伴する (乙咩・小倉 1983) ことから、12 世紀から 14 世紀前半の所産と思われる。6 は包含層出土の甑の把手である。

完掘後、遺構は図面及び写真で記録保存を行い工事着工とした。

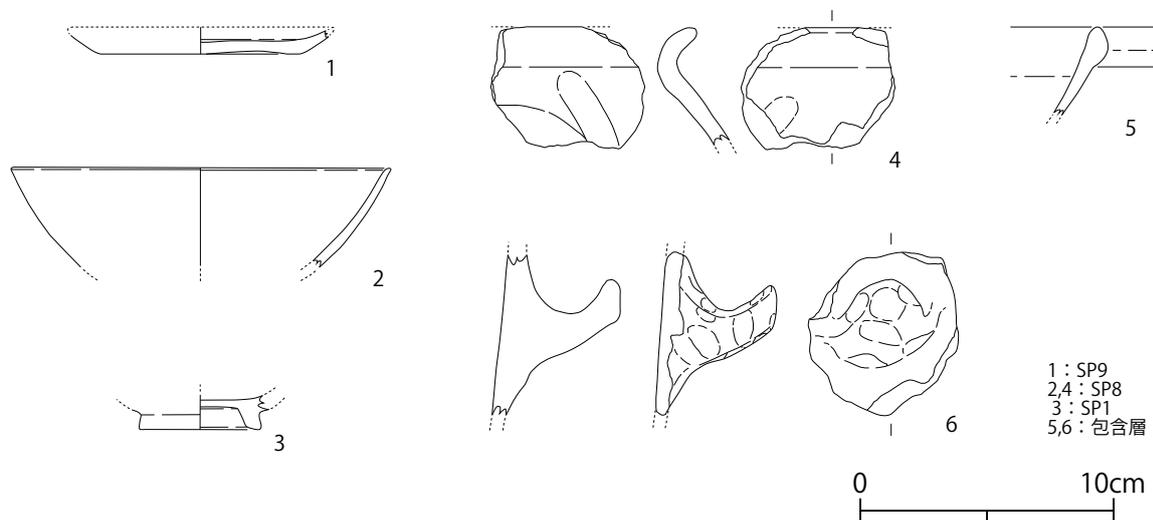
当遺跡での調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地への登録後初めてであった。結果、南北に延びる微高地上に古墳時代以降の集落跡が存在すること、遺構密度が非常に高いことが明らかとなった。地表から遺構面までは約 40cm しかないため、今後の開発には注意を要する。(矢部)

##### 参考文献

乙咩政己・小倉正五 (編) 1983『藤田遺跡』宇佐市教育委員会

横田賢次郎・森田勉 1977「太宰府出土の輸入中国陶磁器について一型式分類と編年を中心として」『九州歴史資料館研究論集 4』

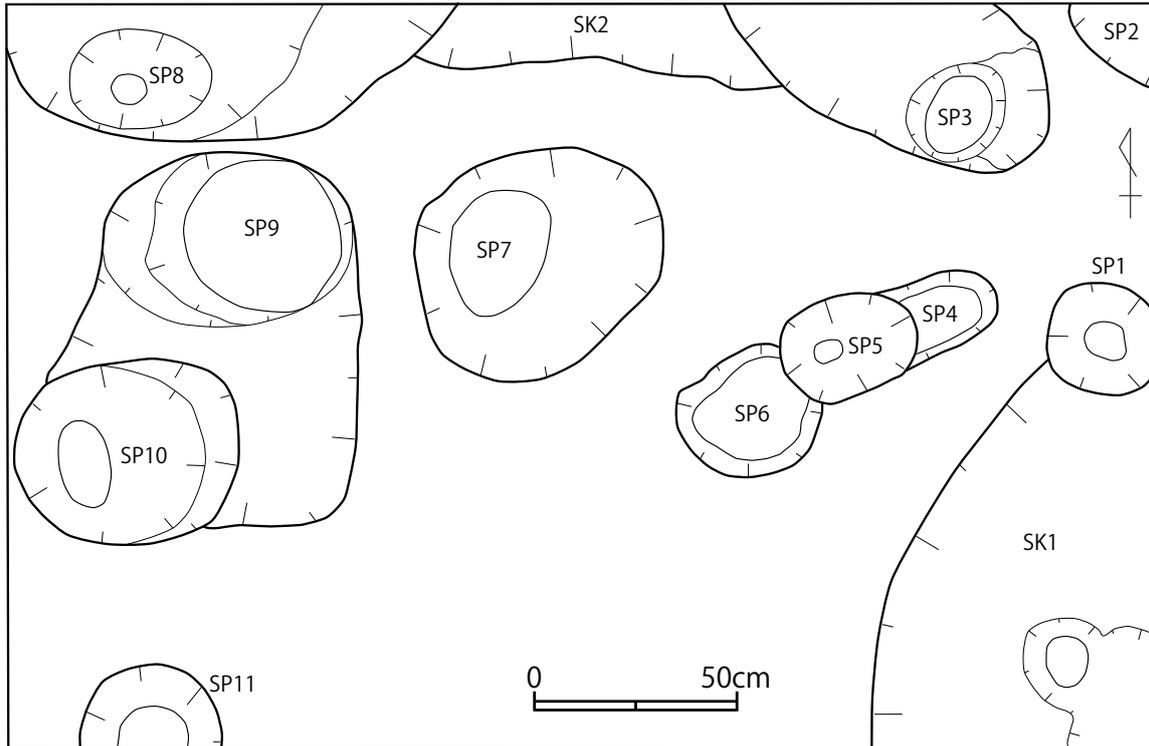
九州歴史資料館



第9図 高村焼生産遺跡出土遺物実測図 (S=1/3)

第2表 高村焼生産遺跡遺構一覧表

遺構名	規模	深さ (cm)	遺物	備考
SP1	実測図 参照	27	土師器杯、土師器	一部検出
SP2		?	なし	一部検出、遺構底面に達せず
SP3		25	土師器、瓦器	一部検出
SP4		5	須恵器大甕、土師器	SP5 に切られる
SP5		35	土師器	SP4、SP6 を切る
SP6		5	瓦器、土師器	SP5 に切られる
SP7		10	土師器	
SP8		40	甕、瓦器碗、土師器杯	一部検出
SP9		45	土師皿、土師器	南側に浅い掘方あり、SP10 に切られる
SP10		45	土師器杯	SP9 を切る
SP11		?	土師器	一部検出、遺構底面に達せず
SK1	10	土師器	一部検出	
SK2	5	土師器	一部検出	
包含層	-	厚さ 30cm	甕、須恵器、土師器、瓦器碗、白磁ほか	古墳時代～中世の遺物を含む



第10図 高村焼生産遺跡遺構配置図 (S=1/15)



高村焼生産遺跡 完掘状況

## (5) 尻掛窯跡

### 調査に至る経緯

尻掛窯跡は宇佐市大字南宇佐の段丘上に位置する、古代の瓦窯跡である。過去の分布調査等により、鴻臚館系唐草文軒平瓦等が発見されており、弥勒寺の瓦窯として周知されている。

今回は、防火水槽設置工事に伴い、事前に確認調査を実施した。

### 調査の概要

調査は、防火水槽設置箇所<sup>1</sup>に2m×5mのトレンチを設置し、遺構・遺物の有無を確認した。

調査の結果、地表下約1.9mまでコンクリート片やビニール片等が混ざる造成土が堆積しており、その下は湧水が著しく調査継続が困難であったため、調査を終了した。その後水槽設置の際に立会を行ったところ、当該地は過去の雨水管の埋設工事等により地表下2m以上の深さまで攪乱を受けていることを確認したため、当該地に遺構は残存していないと判断し工事着工とした。(甲斐)



第11図 尻掛窯跡調査区配置図 (S=1/2,000)

## (6) 大平石棺群等

### 調査に至る経緯

調査地は安心院町下毛東側の丘陵上に位置する。調査地の南西側では、昭和45年の果樹園整備工事等に伴い弥生時代後期から古墳時代前期の大平石棺群、奥城石棺群が発見されている。

今回は、安心院下毛1区の農業基盤整備計画に伴い事前に確認調査を実施した。

### 調査の概要

調査は、大分県立埋蔵文化財センターによる分布調査の結果等を基に、丘陵の傾斜面に沿って南北に4本のトレンチ(21m×4m、16.5m×5m、13.5m×3m、7m×3m)を入れ、遺構・遺物の有無を確認した。

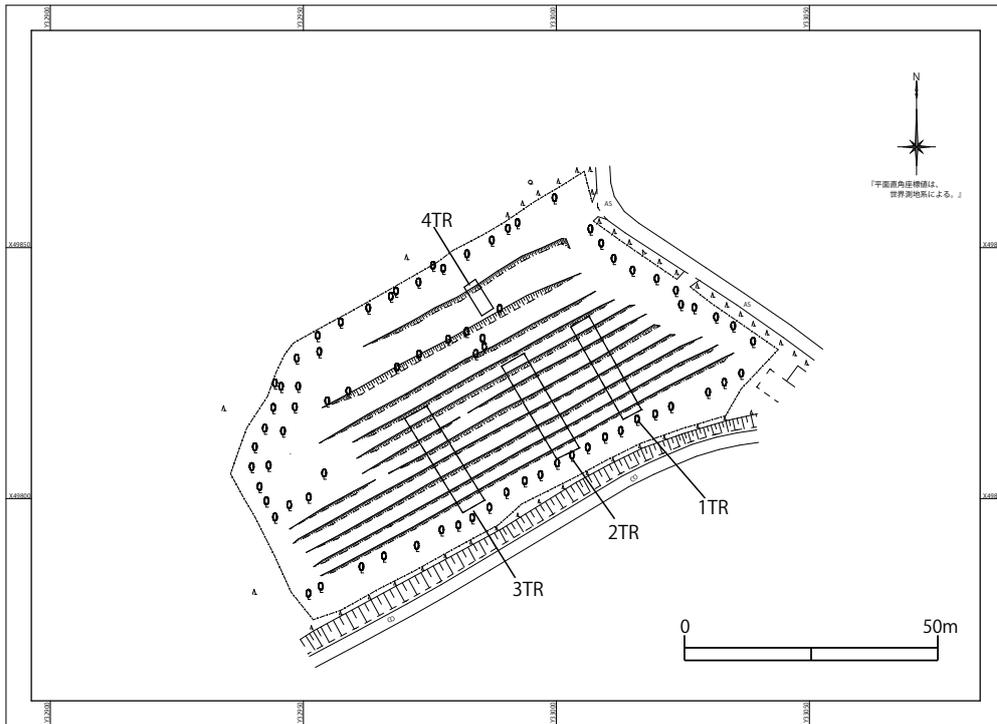
調査の結果、調査地は北から南に、また東から西にかけて傾斜する地形であり、丘陵頂上部に近い4トレンチでは、最も浅い場所で地表下約15cmで地山に達したのに対し、調査地南西に設定した3トレンチでは地山までの深さが浅いところでも約70cmであった。地山面は数cm～60cm大の安山岩を多く含み、傾斜地下面に行くにつれ、岩の大きさも大型化する。

各トレンチとも遺構は検出していない。遺物は3トレンチ北側の耕作土中より黒色土器椀が1点出土したのみである。出土した黒色土器椀は外反する口縁部や脚端が外に張り出す特徴等から平安時代頃のものと思われる。耕作土中からの出土であり表面が摩滅していることから、過去の果樹園整備の際の客土に混入していたものと思われる。

調査地では、遺構が確認されなかったが整備の際に切土の対象となる大平石棺群周辺等は来年度以降も継続して調査を実施する予定である。(甲斐)



第12図 下毛1区調査地点 (S=1/10,000)



第13図  
下毛1区調査区  
配置図  
(S=1/1,500)



尻掛窠跡 完掘状況 (南から)



下毛1区 1TR 完掘状況 (北から)



下毛1区 2TR 完掘状況 (北から)



下毛1区 3TR 完掘状況 (北から)



下毛1区 4TR 完掘状況 (北から)



下毛1区 3TR 出土 黒色土器碗

## (7) 城井遺跡

### 調査に至る経緯

城井遺跡は、宇佐市大字城井に所在し、駅館川西側に発達した低位段丘上に位置する。調査地周辺では、調査地南東約400mの場所に位置する市営城井団地の建替え（平成6年）及び新築（平成17年）に伴う発掘調査の際に、弥生時代後期の竪穴住居が8軒、奈良時代終わりから平安時代初め頃の掘立柱建物跡が14棟確認されている。さらに調査地南側50mの場所に位置する宅地造成の際の調査（平成30年度）では、地表下約30cmの深さで弥生時代後期の土器片が出土するピットや調査区周辺での古墳時代後期の須恵器片及び古代の須恵器片等の散布を確認しており、調査地での当該期の遺構の確認が期待された。

今年度の調査は、当該地での高齢者福祉施設建設の計画が上がったため、協議の際の参考資料を得ることを目的に所有者と協議し事前に確認調査を実施したものである。なお今回は遺構有無の確認を目的としたため、検出した遺構のうち6基のみ深さ確認のため半載した。以下各トレンチで特筆すべき遺構について報告する。



第14図 城井遺跡調査地点 (S=1/4,000)

### 調査の概要

1 トレンチは、南北24m×東西5mである。地表下約40cmで遺構を検出した。調査区南側で南北1.9m、東西1.9mのSE-01を検出した。SE-01の東側には直径20cmのピットが付く。遺構上面は過去の耕作による攪乱を受けており、古代・中世の土器片が多数散乱する状態であった。

2 トレンチは、南北13.5m×東西4mである。地表下約60cmで遺構を検出した。調査区北側で東西に伸びる幅約1.5mの石列(SS-01)を確認した。遺構に伴う明確な遺物はなく詳細な時期は不明であるが、遺構検出面よりやや高い位置からの検出であるため、近世以降の水路跡あるいは屋敷地を区切る境界施設等の可能性が考えられる。SS-01に壊される形で、下面から東西4.5m、南北4mの遺構(SI-01)を検出した。本遺構は平面形の大きさから竪穴建物と思われるが、SS-01に壊されており、さらに調査の時間的な制約により遺構の輪郭をとらえきれなかったため、遺構の詳細は不明である。再度然るべき時期に検討が必要な遺構である。

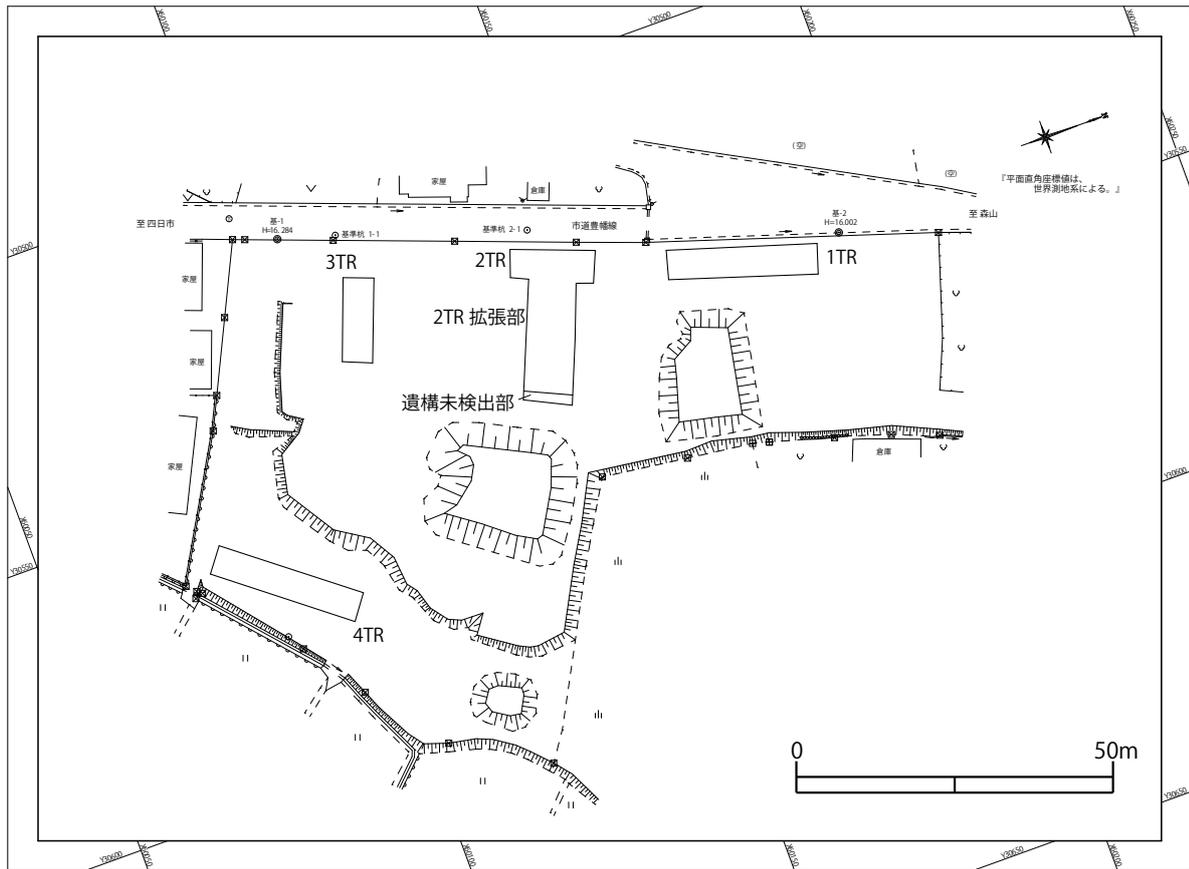
2 トレンチ拡張部は、南北7.5m×東西20mである。地表下約60cmで遺構を検出した。調査区西側で2TRから続く掘立柱建物SB-01を検出した。柱穴の直径は40cm～50cmほどであり建物規模は桁行4間(5m)、梁間3間(4.5m)に復元できる。SB-01の柱穴SP249を半載した。検出面からの深さは22cmであり、遺物は出土していない。またSB-01の柱穴SP238と重複する形で長径2.5m、短径0.9mの隅丸長方形の遺構(SK4)を検出した。多数のピットと重複するため、遺構の正確な輪郭は不明であるが平面形、規模から墓の可能性が考えられる。北側上面からは、中世の瓦器片が出土している。

また、東側では東西6m×南北6.5m以上の竪穴建物SI-02を検出した。北側の埋土は多量の焼土を含むことから、カマドの可能性もある。遺構南西部のトレンチ壁際に南北0.6m、東西1.5mのサブトレンチ1を設定しSI-02の深さを確認したところ、検出面から床面までの深さは約26cmであった。なお、サブトレンチ1の下面より柱穴と考えられるピットを1基検出している。サブトレンチからの出土遺物はない。遺構中央部では上層の攪乱層中ではあるが、古墳時代後期後半の甕把手等が出土している。

3 トレンチは、南北13.5m×東西5mである。地表下約40cmで遺構を検出した。調査区の大部分が過去の耕作による攪乱を受けており、遺構検出最上面での精査は困難であった。しかし、規模・軸を同じくするピットを多数確認したため、トレンチ周辺には数棟の掘立柱建物が残存している可能性が考えられる。

4 トレンチは、南北19.5m×東西5mである。西側は表土下数cmで遺構を検出し、東側も地表下約10cmで遺構を検出した。調査区南側で南東から北西へと伸びる石列(SS-02)を確認した他、SS-02に壊される形で、SI-03を確認した。SI-03の中央部からは、古墳時代後期頃の土師器甕片が出土している。またトレンチ中央部では、東西に伸びる幅約1.3mの溝SD-01を検出した。遺構中央部より古墳時代後期から古代に比定される須恵器の蓋等が出土している。

以上調査により、当該地では少なくとも古墳時代、古代、中世の遺構が残存していることが明らかになった。調査の結果をもとに、開発者と協議し遺構の保存あるいは本調査を実施する予定である。(甲斐)



第 15 図 城井遺跡調査区配置図 (S=1/1,250)



1TR 遺構検出状況 (南東から)



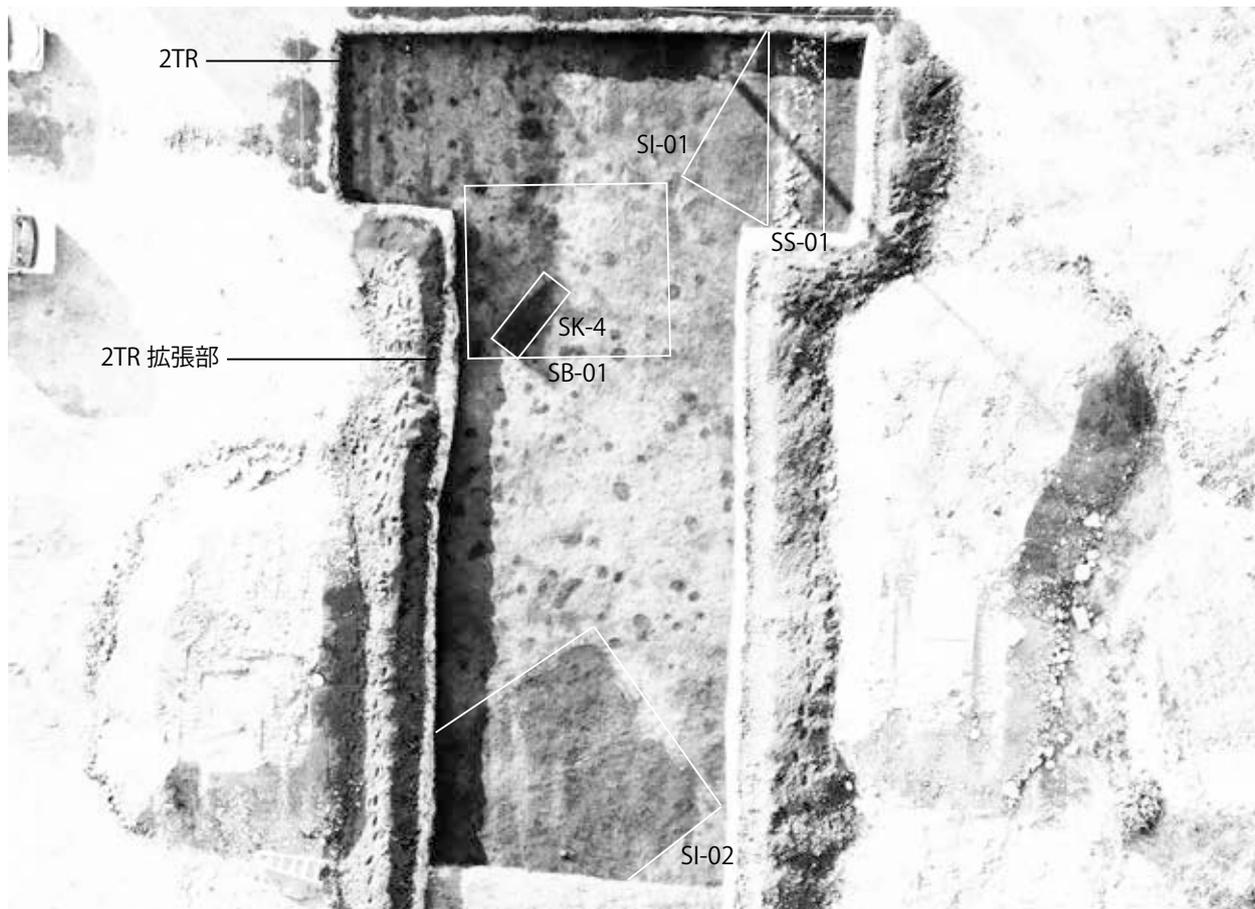
2TR 遺構検出状況 (南から)



2TR 拡張部遺構検出状況 (東から)



3TR 遺構検出状況 (東から)



2TR 及び 2TR 拡張部 遺構検出状況 (空撮 上が西)



2TR SS-01、SI-01 検出状況 (北東から)



2TR 拡張部 SI-02 検出状況 (西から)



2TR 拡張部 SK4 検出状況 (墓か 南から)



2TR 及び 2TR 拡張部 SB-01 検出状況 (北から)



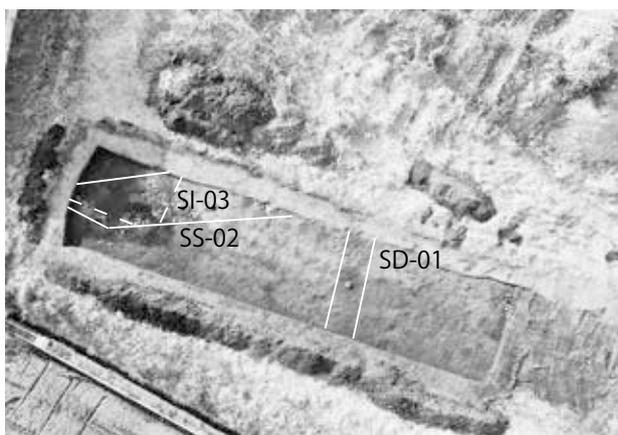
1TR 遺構検出状況 (空撮 上が西)



1TR SE-01 検出状況 (南から)



3TR ピット検出状況 (西から)



4TR 遺構検出状況 (空撮 上が西)



4TR 遺構検出状況 (南から)



4TR SI-03 検出状況 (南西から)



調査地遠景 (北東から)



2TR SI-02 上層攪乱層中出土 甑把手片

## (8) 史跡 宇佐神宮境内 (菱形池 御霊水付近)

### 調査に至る経緯

史跡宇佐神宮境内保存整備事業として平成30年度から今年度まで、菱形池の浚渫工事等を実施しており、今年度は池の南側で工事を実施した。池南東に位置する御霊水は、欽明天皇32(571)年に八幡神が顕現した場所という伝承がある場所であるため、浚渫工事に合わせて発掘調査を実施した。

### 調査の概要

御霊水北側の湾部に堆積した土砂を重機で除去したところ、直径1～2m程の円形の井戸を2基検出した。遺構の埋土は碎石等を多く含む。遺物は出土しなかった。遺構周辺には粘質の造成土が広がっており、含めて昭和7年から同17年に行われた造営の際のものと思われる。

御霊水北側参道沿いの石垣には「桐井坊」と彫られた石材が、上下反転した状態で組み込まれていた。桐井坊は宇佐神宮南側の宮迫地区にあった坊跡であり、昭和の大造営の際に近隣から石材等を集めて工事を行ったことが伺える。

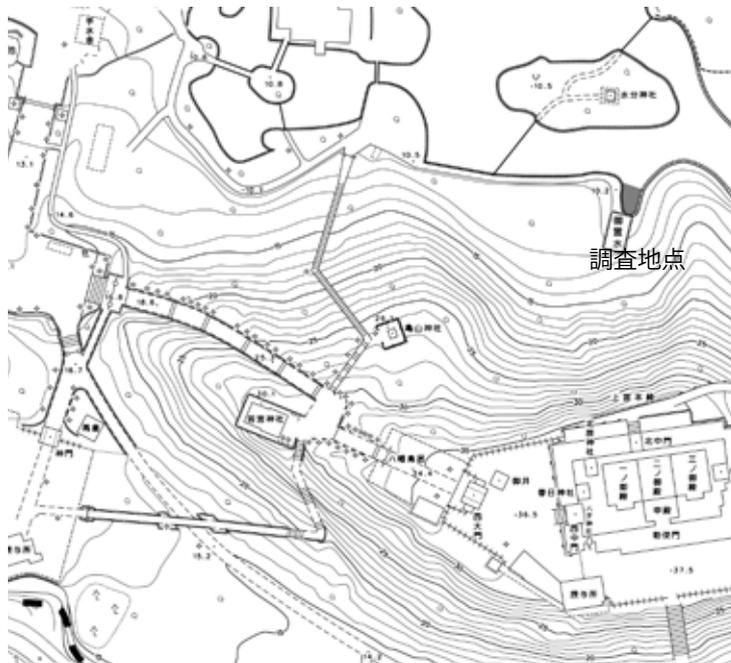
工事では遺構に影響がないことが確認できたため、図面等で記録した。

(弘中)

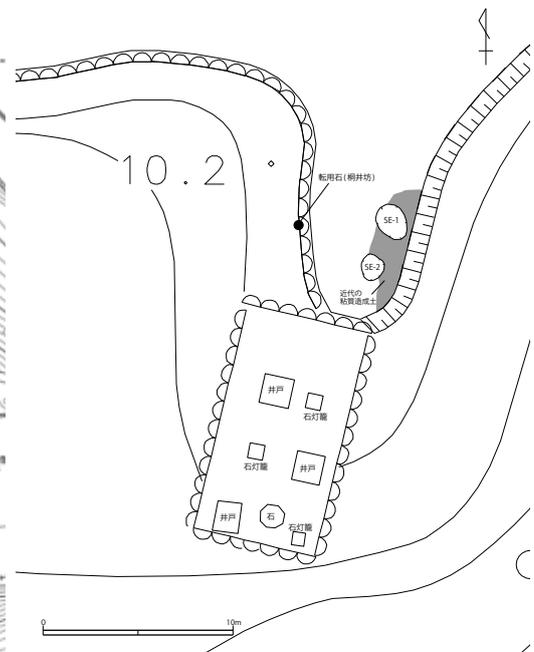


0 10cm

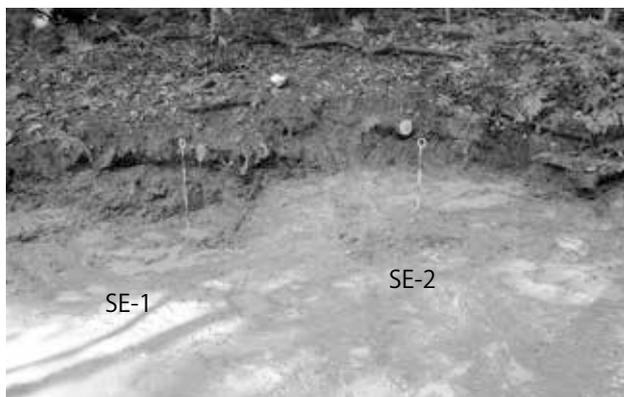
転用石材の拓本 (S=1/4)



第16図 調査地点位置図 (S=1/2500)



第17図 調査区平面図 (S=1/400)



御霊水北側 遺構検出状況 (東から)



御霊水北側 転用石 (西から)

# 報告書抄録

ふりがな	しないいせきはつくつちょうさがいほう 28
書名	市内遺跡発掘調査概報 28
副書名	平成 31（令和元）年度調査の概要
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	矢部翔平、弘中正芳、甲斐安寿生
編著機関	宇佐市教育委員会
所在地	〒 879-0492 大分県宇佐市大字上田 1030 番地の 1 TEL 0978 - 32-1111
発行年月日	西暦 2020 年 3 月 30 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘 面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
第 1 表に同じ								

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
第 1 表に同じ					

要約	平成 31（令和元）年度に実施した 7 件の確認調査、27 件の立会調査の概要報告書である。
----	--

令和 2 年 3 月 23 日 印刷

令和 2 年 3 月 30 日 発行

## 市内遺跡発掘調査概報 28

平成 31（令和元）年度調査の概要

著作権所有 大分県宇佐市大字上田 1030 番地の 1

発行者 宇佐市教育委員会

印刷者 明治印刷

大分県宇佐市長洲 607

TEL (0978) 38-0135

